

「世界—日本—身近な地域」の 視点から見た地球環境問題

～地域の温暖化防止活動との連携を図った授業づくり～

香川大学教育学部附属高松中学校 三野 健

はじめに

環境問題は国境を超え、地球的な規模にまで拡大し、深刻化してきた。近年においても、夏に異常な猛暑が続いたり、季節はずれの強力な台風が襲来したり、局地的な大雨が降ったりするなど、地球環境問題が影響したといわれる異常気象や災害が世界各地で相次いでいる。遠く離れた土地で起こり、遠い先の話だと思っていた問題が眼前の危機として現れてきているように感じる。地球環境問題についてのTVや新聞等の報道や数多くの情報にふれる機会も多くなり、社会全体における関心もおおいに高まってきている。

しかし、地球環境問題に関する観点はさまざまで結果として情報にはそれぞれ異なった見解が存在することがあり得る。また、情報に経済活動などでの利害が関わる場合もある。ゆえに、増えすぎた情報量に振り回されて、問題の本質や全体像が見えにくくなることがある。

授業づくりにあたっては、その前段階として、地球環境問題においては何が問題となっているのか、根本の原因は何なのか、われわれの社会や暮らしとどうつながっているのかを改めて考えることが大切である。また、学習者の実態を把握したうえで、地球環境問題に興味を持ち、自分たちの問題として捉え、社会に溢れる情報に対して判断・吟味しようとする姿勢を育てることも重要である。

2 単元構成について

学習指導要領では、内容の取り扱いとして、次のように示されている。

- ①適切な課題を設けて行う学習の工夫。
- ②国際的な協力・協調に着目させる。
- ③身近な地域との関連性を重視し、世界的視野と

地域的な視点に立って追究する。

単元構成においては、①～③をもとにしながら、単元を貫く視点を設けたり、具体的な手立てを講じたりすることで指導の工夫を図った。以下の(1)～(3)が授業化の際のポイントである。

(1)「世界—日本—身近な地域」の視点から捉えた地球環境

ここではおもに地球温暖化問題を取り上げていくが、社会発見の方向として「世界→日本→身近な地域」といった段階を設け、事実認識を確実にさせていきたい。また、温暖化の影響が身近な香川県にも及んでいることを知ることで、地球規模の問題と自己とのつながりを感じることもできるのではないかと考えた。

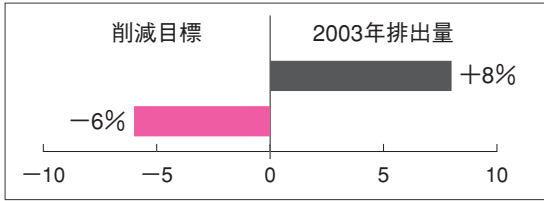
(2) 地域の温暖化防止活動との連携

教材研究や授業化の過程で、四国EPO(四国環境パートナーシップ)を訪れ、環境省の環境カウンセラーや県の環境政策課の方を紹介していただき、温暖化に関する多くの情報を提供していただいた。また、授業プランについても相談したところ、専門的な視野から講話をしていただけることとなった。

(3) 自ら収集した資料や情報を多面的・多角的に見つめる活動

単元展開において、知識・理解面を教え込むだけの学習活動にならないように、生徒の地球環境問題に対する興味・関心を高め、その原因や影響を分析的に追究させていきたい。そのために、地球環境問題に関する新聞記事やインターネット資料、図書資料などを自ら収集し、それらの情報をつなげて事実を認識したり、情報に対する考えを交流し合ったりする場面を設けたい。さまざまな情報をもとに学習を進めていくなかで、複数の視点や立場から考え、話し合うことで事実認識が深まり、今後に向けての未来予測や主体的な意志決定につながってくると考える。

<日本の削減目標と2003年時点での温室効果ガス排出量>



出典 環境保全再生機構

③ 国内への温暖化の影響と防止対策について調べる
(政治的な側面・経済的な側面に注目しながら)。

- ・他国より多い温室効果ガス排出量
- ・自然や気候への影響
- ・「チームマイナス6%」や企業の取り組み

第5、6時 香川県の温暖化～地域の温暖化対策～

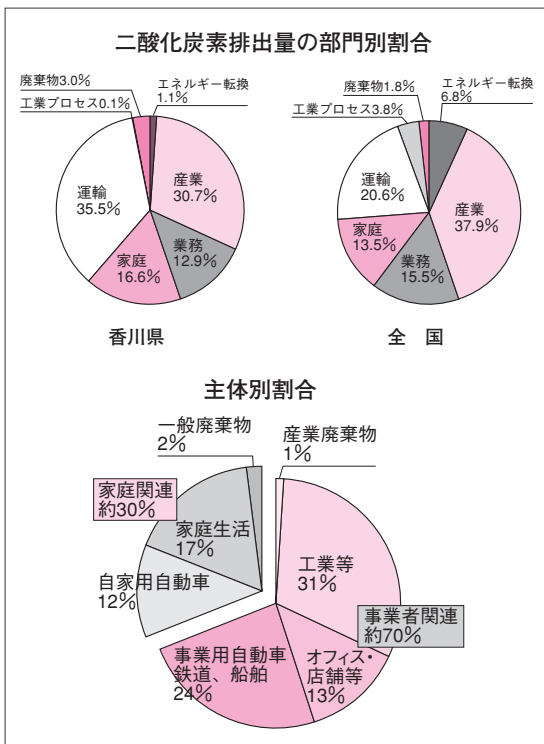
【目標】

香川県への温暖化の影響や県内の温暖化防止対策について調べるとともに、温暖化防止活動推進委員会の方の話を開いて地球環境と自己とのつながりを認識する。

【展開】

① 香川県への温暖化の影響について調べる。

- ・車社会の弊害
- ・気温の変化
- ・葉の落ちた木々
- ・農業や漁業への影響



出典 香川県地球温暖化防止活動推進センター

② 県内の温暖化対策推進計画や温暖化防止活動推進センターの活動について調べる。

→ 県の環境対策課の方へのインタビューを聞く。

③ 県地球温暖化防止活動委員会の方の話聞く。

- ・地球温暖化をどのようなスケールで捉えるか？
- ・県内での温暖化防止活動の様子を知る
- ・未来に対する前向きな展望をもつ

第7時 温暖化ストップと新エネルギー

【目標】

香川県が温暖化対策として太陽光発電に力を入れていることを知るとともに、新エネルギーの必要性について考える。

【展開】

① 香川県が温暖化対策として太陽光発電に力を入れていることを知る。(環境政策課へのインタビューと資料)

② 化石燃料の消費ストップと新エネルギーの必要性について調べる(オランダなどエネルギーへの取り組みを紹介)。

③ 国内における新エネルギーの開発や企業への利用義務づけの制度について調べる。

第8時 私たちの「不都合な真実」とは？

【目標】

レポート作成や討論を通して地球環境問題に対する自分の見方や考え方を深める。

- ① これまでの学習を振り返ってのレポートを作成する。
- ② 地球環境問題について考えたことを交流し合う。
- ③ 学習の成果を新聞に投稿したり、環境政策課に紹介したりする。

4 おわりに

総合的な学習や他教科との関連を図りながらも、社会科としてどのような内容を認識させ、見方や考え方を育てていくかを整理して展開することが大切である。また、地球環境問題の現実的な諸課題についてさまざまな視点や立場から考えさせながら、将来に向けて悲観することなく、前向きな展望をもたせたいと考えている。